



CL季刊誌講読所感

C. S.

10/10

昨年、初期癌の手術で1週間入院しました。

その1年後に被災地の沿岸から113km離れた内陸の盛岡市に引っ越すことになるなんて自分でも驚きです。必要に迫られてのことでしたが親戚、友人、知人からも「え〜っ」と驚かれるばかりです。

引っ越しの準備は半年前からスタートしました。準備が順調に進んでも『沿岸の被災地よりは、はるかに便利な県都盛岡市に本当に住めるのだろうか?』と半信半疑でした。『大きな災害で中止になるかも』などと余計なことを考えながら、疑いながらレンガを1個1個積み上げるように成すべきことを続けました。私の周囲には仕事として今回の転居に関わって下さった複数の方々がありました。

季刊誌-内観に関するCL的見方(1)-で教えて頂いたように、働いた努力に報酬が支払われた方々、仕事として関わって下さった方々のお陰で転居できました。丁寧に親切に仕事をして下さいました。『事実は本当に親切』でした。

私は迷惑を掛けることが多く、働いて税金を納めることもできない『していただける』理由を持たない存在なの입니다。ほとんど知る人のいない土地で様々な職業の方々の働きにより私は生かされています。有難いことです。

課題が多過ぎてパニックになることもしばしばでした。そういうときは現在1番大切なことは何かをメモしました。コントロールできることか、できないことか。成すべきことは何か?立ち止まりチェックし、大切なことと優先すべきことを見失わずに済んだのはCLのお陰でした。

引っ越して3日後、散歩中のワンちゃんに会いました。私が飼っていた犬種と同じ黒の柴犬でした。事実はなんて素敵なプレゼントを下さるのでしょうか。

こちらで初めて見掛けた猫は白猫。うちの2代目の猫も真っ白でした。次に見掛けたのは、白に茶トラの模様。初めて保護した猫に似ている模様。目付きの悪いところもそっくりでした。3番目は3代目の猫みたいなベージュ色の模様。黒猫、キジ猫、三毛猫、には会わず、私の家族だった猫たちと同じ模様の猫ばかりに会わせて貰えました。事実からのプレゼントはセンスが良過ぎます。

さらに お隣のおばあさんのお名前が初代の猫と同じ名前です。ここまで偶然が続くと自分はこの土地に歓迎されているのでは?などと思う程に嬉しくなります。キリスト教の信者なら『神慮だ』と表現するのではと思います。現実には、毎日成すべきことがやってきて淡々とこなすだけです。淡々とご

飯を作り、お茶碗を洗う、洗い立ての服を着ては、また洗うことの繰り返し。沿岸の被災地でも県都でも最低限度の必要な行動は似たようなこと。

知らない人ばかりで誰も私の服装もヘアスタイルも見る人はいないと油断していたら、あっという間にとんでもなく、た～るとおなかにお肉が付いてしまいました。

『若い人たちへの健康的なアドバイス3』では「食べるかどうか、どれくらい食べるかは自分でコントロールできるのです」「お腹がすくことをそのままにして体を動かす」とのアドバイスを読ませて頂きました。

「食べたいは感情、食べるは行動」と理解したつもりでも制御不能なまま今日に至ります。『内観に関するCL的見方』に書いてあった『修理すべきものを見つけたのに直さないのと同じです』そういう状態です。また『報告するのが上手な内観者がいますが、行動は変わりません』と書かれていたように、私の行動も変わらず体重オーバーのままです。

被災地の沿岸とは異なり、若いご夫婦が赤ちゃんを抱っこして歩いているのを見掛けます。親御さんの肩越しに赤ちゃんが目が合います。表情だけで愛嬌をして、赤ちゃんに笑って貰えます。一期一会の赤ちゃんとの触れ合いを楽しんでいます。


散歩中の小型犬にも会える機会が増えました。初対面のワンちゃんを撫で撫でさせて貰えるのも至福の時です。

歴史的な建造物に足を止め、しげしげと見上げるのも小学生の社会科見学のようにフレッシュです。

1年前の頃は、退院して、病院の臭いの付いたタオルケット、バスタオル、衣類をコツコツ洗濯するのを終えていた頃かと思います。日常生活に戻ろうとソロリソロリと動いておりました。先月から新しい生活がスタートし、田舎者の私は城下町での新しい生活を楽しんでいます。面白いです。

今は面白くて仕方なくても、時が経ち慣れると、それが日常になりふつ～のこととなり、見慣れた景色は埃っぽく、冷たく、固く感じるようになるのかもしれませんが。

これから1年後、またもや劇的な変化があるのか、単調な10年が過ぎてしまうのか、全く分かりませんが、そのとき、そのときの成すべきことを淡々とこなすだけです。(岩手県盛岡市)

 [目次へ戻る](#)